

令和7年度全国学力・学習状況調査を受けて

泉佐野市立第二小学校

これまでのとりくみ(P・D)

【教育目標】

「子どもたちが生きる未来の科学や文化の創造と発展のための主体者を育成する。」

【めざす子ども像】

①たくましく心豊かな子ども ②自ら学び、主体的に行動する子ども ③ちがいを認め合い、自分を表現できる子ども



【課題】

- 自分で考えて行動すること
- 自分の考えをまとめること
- 自分の考えを表現すること

【課題解決に向けて】

- 自分の思いや考えを「日記(作文)」に書く
- 本を読んで考えたことを「読書の記録」に書く
- 互いの意見の共有を通して、違いや良さを認め合う活動を行う

【研究主題】 自ら考え主体的に学び続ける子の育成～自己調整力を育む単元・授業づくりを通して～

【つけたい力】 自分で考え、判断し、自分を表現する力、他者とつながる力

教科の結果より

○成績 ●課題 (本校の正答率／全国の正答率)

【国語】

- 目的を意識した読み取りができている。○自身の経験を基に読み取っている。
- 図から情報を読み取り、解答している。○話し合い活動の読み解きがよくできている。(82.3/81.6)

●無解答率が高い。(28.1/16.2) ●時間内に解けない児童が多い。

●説明文の読み取りが苦手な傾向にある。●いくつかの条件を基にまとめる力が弱い。

●設問の中で解答のために必要な情報を読み取ることができず、答え方の順序が理解できていない。(38.5/40.8)

【算数】

○異分母の分数の加法の計算をしたり、数量の関係を捉えて式に表したりできている。(88.5/81.3)(88.5/82.8)

●目的に応じて適切なグラフを選択して数値を読み取り、言葉と数を使って記述することに課題がある。(19.8/31.0)

●「10%増量」の意味を解釈し、「増加後の量」が「増加前の量」の何倍になっているかを表すことに課題がある。(29.2/40.9)

【理科】

○「生命」を柱とする領域(ヘチマの花のつくりや発芽の条件など)の正答率が高く、全国との差異は少ない。(50.8/52.0)

●「エネルギー」を柱とする領域(アルミニウムの性質や乾電池のつなぎ方など)の正答率が低く、課題がある。(41.8/46.7)

●「粒子」を柱とする領域(水の状態変化など)の正答率が低く、課題がある。(43.9./51.4)

●記述式問題で無解答率が高い。(20.0/11.4)

●問題の条件が読み取れず、誤答につながっている。

※数値は肯定的回収率

児童質問より	本校の回答率	全国の回答率
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができますか	49.5	35.5
いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか	75.8	81.4

【国語】

- ・短時間で文章を書く力の育成を図る。・普段の授業から、条件をつけた作文や資料を読み取って自分の考えを書く時間を設定する。
- ・読書時間を充実させる。・具体例や事実・根拠の意味をおさえる。・複数の資料から読み取った内容をまとめるような授業展開を心がける。
- ・小テストだけではなく、前後の文章から適切な漢字が分かるような指導の工夫をする。

【算数】

・問題が具体的にイメージできるように絵や図を使って書くようにする。

・文章問題では、他者に解き方をわかりやすく言葉で説明できるようにする。

・他教科にわたって目的をもってデータを集め、それを表やグラフに整理したり、比較したりする活動を増やす。

【理科】

・自学やプリントを通じて、既習内容の反復練習をくり返し行う。(知識の定着)

・実験や観察の結果やその理由や考察を自分の言葉でまとめる習慣をつける。(表現力)

【児童質問】

・『いじめ』の重さの理解を一層図る。そのために、相手の気持ちを考える学習を行う。

・今後も、見通しをもった学習計画や、学習意欲を高めて「自分の為に学習する」ことを意識させる。また人権学習やキャリア教育等、「これから自分(たち)は、どのように成長していきたいか」を考える機会をもたせる。

・日常の学習時間や委員会、係活動などの中でも諦めない気持ちや最後までやりぬく粘り強さを養えるよう前向きな声掛けを行い、自己有用感を高めていく。

これからのとりくみ(A)